



海浜旅館や別荘宿といわれる茅ヶ崎館は、明治32年(1899)6月に開業。初代は日本郵船の御用船機関長をしていた森信次郎。同年9月、近所に東洋一のサナトリウム南湖院が開院。海水浴客やお見舞い客をみこして数件の宿泊施設がこの年に開業しました。茅ヶ崎に唯一現存し、営業しているのは茅ヶ崎館のみ。芸能史と深い関係があり、今も毎年のように映画の脚本が書かれ、またロケーション撮影が行われています。

敷地は北側に玄関と車寄せ、南に向かってコの字型に建物が中庭を囲んでいます。広間は48畳に縁側で60畳の広さがあり、襖で3部屋に分けることも出来ます。

明治35年(1902)茅ヶ崎に移り住んだ川上音二郎と貞奴が「オセロ」の本読み稽古をしました。明治41年(1908)6月23日、南湖院で国木田独歩が亡くなり、故人を偲んで文人が茅ヶ崎館に集まりお清めの宴会を行いました。田山花袋の「東京の三十年」に詳しい記述があります。大正12年(1923)9月1日の関東大震災でほとんどの建物が倒壊しましたが、唐傘天井の浴室棟が現存します。大正14年(1925)に再建され、現存する広間棟・中二階棟・長屋棟の4棟が平成21年(2009)茅ヶ崎市として初めて登録有形文化財となりました。

昭和7年(1932)、映画「与太者と海水浴」の撮影隊が宿泊。この作品の脚本家である柳井隆雄は茅ヶ崎在住でした。昭和12年(1937)4月27日、映画監督の小津安二郎が茅ヶ崎在住の脚本家池田忠雄と共に逗留。以後「父ありき」「長屋紳士録」「晩春」「麦秋」「東京物語」など、昭和34年(1959)まで名作8~9作品を執筆、茅ヶ崎海岸周辺では5作品のロケーション撮影を行っています。主に脚本家の野田高梧と共同執筆し、齊藤良輔、新藤兼人、渋谷実と同時代に仕事場(本書き宿)として使用していました。現在も予約制の宿泊・食事のみの利用もできます。

所在地 茅ヶ崎市中海岸3-8-5  
 建物概要 木造(屋根:瓦葺入母屋造、瓦葺寄棟造  
 外壁:木造モルタル)  
 建築面積 300坪  
 建築年 明治32年(1899年)、大正15年(1928年)  
 設計・施工 松本常吉  
 交通 電車でJR東海道本線茅ヶ崎駅より徒歩20分  
 国登録有形文化財 第14-0148~0151号  
 ※平成21年(2009年)1月8日登録  
 ※見学には事前予約が必要です

# Gallery

写真右 回遊庭園

写真中(左) 唐笠天井風呂

写真中(右) 小津部屋「二番」

